建設経済委員会先進地視察報告書

日　　時	平成２８年５月１２日（木）午後１時から午後３時まで
視　察　先	新潟県新発田市
視 察 項 目	新発田駅前複合施設整備について
視　察　者	委 員 長　大村　聡 副委員長　渡邉眞弓 委　　員　林　正則、伊藤清一郎、冨田一太郎、夏目　豊
視 察 内 容	新発田市では、新発田駅前複合施設整備として、中心市街地活性化基本計画を策定し、駅前土地区画整理事業や駅のバリアフリー化、地下通路の改修など駅周辺事業に取り組むとともに、市の玄関口にふさわしい複合施設とするため、民間施設と公共施設との連携や相乗効果を十分発揮するよう整備を進めている。この新発田駅前複合施設整備についての概要や経緯、課題や今後の展開などについて視察した。 施設の基本設計では、基本設計ワークショップや提案箱、高校生アンケート等市民の意見を取り入れ、同時に有識者や各機能に精通する市民の意見を反映させるため、基本設計審査会を設置。その後、市民が参加するワークショップや専門委員会等での意見を踏まえ、27年３月に「新発田駅前複合施設管理運営方針」を策定している。そのなかで、管理運営形態は市の直営とし、市民によるサポート組織、既存コミュニティなどとの連携による体制を構築するとしている。このサポート組織の役割は、施設で行われる事業の企画や実施、並びに施設の管理運営に参画し、施設運営及び施設利用者をサポートすることである。市は施設管理運営組織を設置し、施設長の統括のもと、企画・総務、図書館運営、こどもセンター運営、キッチンスタジオ運営を担当する業務グループによる体制とした。 また、施設の多様な活用と市民活動の促進を図るため、市民の積極的な参画による施設の運営に努め、市の管理運営組織と市民のサポート組織により、定期的に運営協議会が開催され、効率的・効果的な施設運営をしている。
所　　感	新発田市においては、中心市街地の入口である駅前に大規模な遊休地が残り、駅利用者や周辺市民等からの要望もあり、中心市街地活性化に向けた新発田駅周辺の機能拡充と遊休地の有効活用が急務となっていた。新発田駅を最寄駅とする高校との動線上に図書館の一部機能を移転・拡充し、また、市が推進する食育を様々な世代の人が集まり・学び・活動できるキッチンスタジオ、子育て世代から要望の多い室内プレイルームを備えた子育て支援施設などとあわせ、民間施設との複合化により利便性の高い施設整備を目指し、さらに、基本設計や管理運営の方針等を決定する上で、学生との意見交換会や高校生アンケート、市民が参加するワークショップなど積極的に市民の意見を取り入れられる仕組みができていた。 本市に置き換えて考えた場合、朝倉駅前を活性化し人口の増加を図るためには、どのような施設が必要とされているのかをしっかりと見極め、次世代の多種多様なニーズに対応できる施設整備を目指すことが重要であり、朝倉駅周辺整備基本構想の調査が始まっている現在、今回の視察は参考となる事例としてその経過と進捗状況の確認を行うことができ、時宜にかなった視察であった。

日　　時	平成２８年５月１３日（金）午前１０時から正午まで
視　察　先	新潟県三条市
視 察 項 目	中心市街地活性化の取り組みについて
視　察　者	委 員 長　大村　聡 副委員長　渡邉眞弓 委　　員　林　正則、伊藤清一郎、冨田一太郎、夏目　豊
視 察 内 容	三条市の「中心市街地活性化の取り組みについて」は、中心市街地活性化に資する市民、ＮＰＯ、民間事業者などの活動への様々な支援を行っている。また、三条マルシェは、市民によって創り出されたイベントで、運営は事業主や主婦、学生などの市民で構成される三条マルシェ実行委員会が担っている。そのほか開催地域住民の理解、商店街の協力、出店者や出演者など、多くの市民が盛り上げに関わっている。これらの中心市街地活性化の取り組みについての概要や経緯、効果や評価、課題や今後の展開などについて視察をした。 近年の急速なモータリゼーションの進展、消費者のライフスタイルの多様化や郊外型大型店の増加などによる影響、また事業者の高齢化や後継者不足による廃業などが原因となり、市内の商店街には年々空き店舗が増加する傾向があった。空き店舗が増加すると、そのことが来街者の減少やにぎわいの喪失にさらに拍車をかけるという悪循環につながり、早急な対応が必要とされていた。 三条マルシェは、行政が主体となる事業ではなく、生産者・製造者・商店街・小売業者と消費者、都市と農村、食と観光などを結び、人が集まり、楽しむ空間をつくり、にぎわいと交流を創出することで中心市街地の活性化を図り、三条市の魅力を市内外に発信している。客として参加して楽しむことができると、次は出店者や出演者として、または、実行委員会に参加してみたくなり、知らないうちにまちづくりに参加していることになる。伝統的な朝市とも合同開催することによって、高齢者の場からファミリー層の取り込みができ、違う世代との交流の場としても活用されている。
所　　感	三条マルシェは、出店者と出演者、主催者が協力し関係者全員でつくり上げていく行事であり、その主催者は、市民力を最大限に活用した三条マルシェ実行委員会である。定期市との合同開催により高齢者とファミリー層、学生も巻き込み開催することにより、世代間交流も盛んになり、この事業に関わり楽しむ市民がふえ、三条マルシェからつながるまちづくりへと発展していった。マルシェ開催後、空き店舗への出店希望者が増加し、その希望者に新規創業に必要な経営の知識とノウハウを体系的に学べるよう、創業準備から出店、出店後のフォローといった一連の支援を行うことで、地域住民から長く愛される店づくり、そこに集う多くの市民との相乗効果による中心市街地の活性化を目指していた。 本市においても、産業まつり、ビーチライフｉｎ新舞子、梅まつり、花火大会等既存事業で、市内の大学生、高校生を巻き込んだ事業を開催することにより、今後のまちづくりに必要な人材の育成にもつながり、こうした市民、ＮＰＯ、事業主などの活動を支援していくことが、今後のまちづくりにおいて重要であると感じた。